# 特集にあたって

中教審答申で「子どもの体力低下が続き……このままでは少子高齢化社会となるわが国が沈滞する」という提起がありました。なぜそうなったのか、本当にそうなのか、新潟県の実態把握はできているのか、改善の方途はみえているのか等々が論議になりました。本誌が子どもたちの体力・スポーツを主題にとりあげるのは初めてです。ゼロからの企画立案でした。

まず、新潟県の子どもたちのからだづくり、健康づくり、その上に成り立つスポーツ活動の実情を子ども、指導者の両面からきちんとつかみたいと思いました。この特集では県教育委員会から総括的なこと、学校現場から個別なものですが、その実態をお聞きしました。新潟大学の調査と研究にも依拠しました。

体育・スポーツを考察する視点をどこに据えるということも初めてのことでした。編集部はこういう時に①その主題についての国際基準はどうなっているか、②専門家・研究者たちが蓄積してきた研究の視点ではどうなっているかをまず学びあってきました。障害児問題の特集の時、そのようにして特集を組んだ経験があります。その時の教訓を生かしました。

特集の意図は次のようにまとめられます。

一、体育・スポーツを考える基本的視点、即ち国際的な到達点をあきらかにしたいと考えました。

その意味でユネスコで採択された『体育・スポーツ国際憲章』の解説をのせました。

二、答申の内容と本質をあきらかにしたいと考えました。一九六〇年代からの体育・スポーツに関する政策展開をも批判的に分析することを考えました。これらの施策が県の実情や教育的な実践をふまえて批判的に検討されるためにもです。

三、実態把握の面では、施策立案にかかわる県教委、子どもたちと学校・地域で向き合うスポーツ指導者・教育者がそれぞれ抱えている状況の発展の側面、矛盾の面も客観的に整理することに努めました。

四、会長諸氏が日頃どのように健康の維持・発展に心を配って体育・スポーツに接しておられるかも集めてみました。

この企画を契機に会員とご家族また県民のみなさんが健康の維持・発展そしてスポーツ文化を楽しむことを話題にとりあげてくださることになればと願ってます。